

地震・津波

# 南海トラフ地震・相模トラフ地震

## ●南海トラフ地震と相模トラフ地震の違い

### ◎南海トラフと相模トラフの位置関係



伊東市に大きな影響を与えることが予想されている地震源は「南海トラフ(駿河湾から日向灘沖まで続く)」「相模トラフ(相模湾から関東南沖に続く)」があります。  
南海トラフにおいては、想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲を監視領域としています。

### ◎南海トラフ地震・相模トラフ地震 被害想定等比較表

震源	南海トラフ(東海地震など)		相模トラフ(神奈川県西部)		
	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2	
想定地震	昭和南海地震	最大クラス	大正型関東地震(関東大震災)	元禄型関東地震	最大クラス
想定地震	8.0~8.7	9.0程度	8.2	8.5	8.7
市内震度面積割合	4以下:0% 5弱:0.5% 5強:51.0% 6弱:48.5% 6強:0%	4以下:0% 5弱:0% 5強:17.1% 6弱:82.9% 6強:0%	4以下:0% 5弱:1.4% 5強:85.5% 6弱:13.1% 6強:0%	4以下:0% 5弱:1.4% 5強:85.5% 6弱:13.1% 6強:0%	4以下:0% 5弱:0.1% 5強:47.4% 6弱:52.4% 6強:0.1%
最大津波高	3m	10m	9m	11m	17m
最大津波到達時間	約19分	約16分	約3分		
死者数	10人	200人	1,400人	2,800人	
重傷者数	30人	100人	200人	400人	
軽傷者数	400人	600人	900人	1,800人	

(平成25年6月静岡県公表「静岡県第4次地震被害想定」より伊東市に関する事項を抜粋)

### ◎南海トラフ地震・相模トラフ地震 発生確率比較表

震源域	地震名	地震規模(マグニチュード)	30年以内発生確率
南海トラフ	南海トラフ地震	8~9クラス	80%程度
相模トラフ	相模トラフ沿いのM8クラスの地震	8クラス(7.9~8.6)	ほぼ0%~6%
	プレートの沈み込みに伴うM7程度の地震	7程度(6.7~7.3)	70%程度

(令和7年1月地震調査研究推進本部公表「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」より抜粋)

- 地震の発生確率については、毎年、地震調査研究推進本部(政府)が更新しております。
- 房総半島南部にある海岸段丘の沼面を形成する地震(元禄関東地震に相当かそれ以上)の平均発生間隔は約2,300年で、今後30年以内の発生確率はほぼ0%とされております。

## ●南海トラフ地震臨時情報

「南海トラフ地震臨時情報」は、南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合、地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報です。情報名の後にキーワードが付記され「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」等の形で発表されます。

気象庁において、マグニチュード6.8以上の地震等の異常な現象を観測した後5~30分後に南海トラフ地震臨時情報(調査中)が発表されます。その後、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」における調査結果を受けて、該当するキーワードを付した臨時情報が発表されます。

政府や自治体から、キーワードに応じた防災対応が呼びかけられますので、呼びかけの内容に応じた防災対応をとってください。

キーワード	発表の条件	発表された場合の住民の行動
調査中	■観測された異常な現象が監視領域の大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合	続報に注意しつつ、地震への備えについて確認しておきましょう。
巨大地震警戒	■監視領域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生したと評価した場合	自宅の耐震性能や避難行動等に不安がある場合には、事前の避難を検討しましょう。一週間程度は警戒を続けてください。
巨大地震注意	■監視領域内のプレート境界においてM7.0以上、M8.0未満の地震が発生したと評価した場合 ■監視領域のプレート境界以外や、監視領域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生したと評価した場合 ■ひずみ計等で有意な変化として認められる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合	日頃からの地震への備えを再度確認し、地震が発生したらすぐに逃げられるよう準備をしておきましょう。一週間程度は警戒を続けてください。
調査終了	■巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合	大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことを留意しながら、通常の生活に戻りましょう。

## ●火山性地震について

火山性地震とは、火山体またはその周辺で発生する地震のことです。地中のマグマの動きや、熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもあります。火山性地震の特徴として、前震、本震、余震の区別がはっきりせず、特定の地域及び時期に集中的に発生する「群発地震」であることが挙げられます。

伊豆東部火山群では、火山活動が活性化すると多く発生する傾向があり、大きな揺れが起こる場合もあります。



### ◎災害豆知識 感震ブレーカーを設置しよう

感震ブレーカーとは、大規模な地震が発生した際、ブレーカーを自動的に落とし、電気を遮断し、停電復旧時に発生する通電火災を防ぐ機器です。

東日本大震災により発生した火災のうち、出火原因が特定されたものの約6割が電気関係によるものでした。

